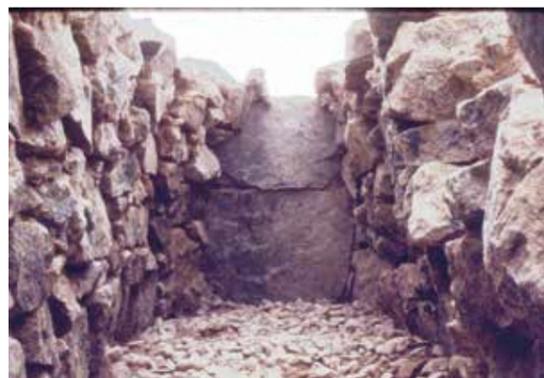


第22回 稲荷塚古墳・八幡塚古墳 (福島市下鳥渡)

月ノ輪山1号墳は、福島市鎌田字月ノ輪山に所在した横穴式石室を持つ円墳です。現在月ノ輪台団地となっている場所は、かつては阿武隈川を見下ろす標高100mほどの丘陵になっており、古墳はその頂部に築かれていました墳丘部の直径が19.8m、高さが2.8mで福島市内の7世紀代の古墳の中では最も大きなものの一つに数えられます。

石室の全長は11.3mで被葬者を埋葬する玄室は胴張形と呼ばれる中央がやや膨らむ平面形で、当時としては最新の石室構築技術を用いたものと考えられます。床面には拳大の玉石が敷き詰められていました。

出土遺物には頭椎大刀(じょーもぴあ宮畑で展示中)や鉄製の鎌などの武具のほか、耳環やガラス玉などの装身具、須恵器などの土器があります。中でも金銅装の鞘に渦巻き波状文が細工された頭椎大刀は中央政権が軍事再編を行う中で、地方の有力者に与えた物との考えもあり、月ノ輪山1号墳の被葬者は中央政権との結びつきを持ち、支配的な立場にあった豪族とみられています。



じょーもぴあ宮畑企画展

縄文はんでも1等賞!

一つしか見つかってないものってあるの?
一番大きな土器ってどのくらい?
一番遠くから運ばれてきたものはなに?

福島市で見つかった縄文時代の1等賞をあつめて
そんな疑問に答えます!

期間 平成30年7月21日(土)~11月19日(日)
※7月21日(土)~8月26日(日)は毎日開館

場所 じょーもぴあ宮畑 体験学習施設じょいもん展示室

入館料 ◆一般 個人:200円 団体:140円(20名以上)
◆高校生以下:100円 団体:70円(20名以上)
※未就学児は無料です。

じょーもぴあ宮畑に展示されている「しゃがむ土偶」は現在、東京とフランスでの特別展に出張中です。先日、幸運にもその出発に立ち会うことが出来ました。国宝や重文クラスの美術品を運ぶ専門チームの皆さんが、慎重かつ手際よくコンポする様には感動を覚えました。

現在展示されている国宝の所在地だけでも、函館・八戸・山形・十日町・茅野の5か所に上ります。その他充分クラスを含めると何か所になるのでしょうか。それらを運ぶために、実際に9つのチームの皆さんが日本中を回ったそうです。大切な地域の宝を運び、多くの人に紹介する機会を作る仕事は、表にこそ出ませんが重要な仕事ですね。

縄文時代を代表する遺物がそろっているこの機会に、1人でも多くの人に縄文の「美の鼓動」を感じていただき、その感想を語り合えることを楽しみにしています。(茂)

じょーもぴあ宮畑だより

2018 夏号

vol. 26

特集 : れきぶん養成講座がはじまりました……………P 2

連載 : 展示案内 ⑩……………P 3

: コラム 縄文の小径 第6回……………P 3

: 福島市の遺跡 第23回……………P 4



じょーもぴあ宮畑春まつりに縄文人大集合!

5月27日に開催されたじょーもぴあ宮畑春まつりは2,500人の来場者があり、盛況のうちに終了しました。火おこし体験や弓矢体験、フリーマーケットも好評でしたが、今回は縄文服を着ての撮影会が大人気! 沢山の人が縄文人になり切った1日でした。

平成30年度 れきぶん養成講座を開講しました

福島市教育委員会文化課とじょーもぴあ・遺跡の案内人が主催する新しい事業「れきぶん養成講座」の開講式と第1回の講座が去る6月23日（土）に福島市市民会館で行われました。

かつて文化課が実施していた文化財ボランティア養成講座は平成●●年の12期をもって終了しました。しかしながら、市民からの講座の要望も強く、またじょーもぴあ・遺跡の案内人や文化財ボランティアのOBで構成されたしのお塾が積極的に市民向けの文化財ボランティア活動を展開していることなどから、この度二者が連携し、文化財ボランティアを養成する新しい形の養成講座を新たに企画することとなりました。

市政だよりなどで参加者を募集したところ定員に倍する申し込みがあり、あまりの反響に参加枠を拡大しての開催となりました。主催者である文化課の課長の挨拶からはじまり（①）、事務局の自己紹介ののち（②）笑いを交えた和やかな参加者の自己紹介となりました。

参加者は講座に対するそれぞれの思いを語りました（③）が、すでに各地区の史跡保存会で活動されている方やこうした講座にしばしば参加している方もおり、「地元の歴史をもっと知りたい」という意見が多数を占めました。なかには福島市の出身ではないからこそ知りたいという方や孫に福島市の歴史を説明したいという方、花の案内人をやっているけれど福島市の歴史についてよく質問されるのでという方もいました。

開講式の後には文化課の大渡・梅津両係長が講師となつての第1回講座「福島市の歴史と文化」が行われました。2万年の長きにわたる郷土の歴史を、予定時間をオーバーし1時間半にわかって語る両係長の熱弁に、受講者一同強く引き込まれました。

今後、全10回の養成講座を修了した受講者はじょーもぴあ宮畑どでの文化財ボランティアとして、活躍してくれることでしょう。



しゃがむ土偶 海を渡る！

福島市飯坂街東湯野の上岡遺跡から出土した重要文化財「しゃがむ土偶」は現在、東京国立博物館の企画展「縄文 1万年の美の鼓動」に出品中され、国宝に指定されている縄文時代の6件の資料をはじめ、縄文時代を代表する名品とともに展示されています。

また、国立博物館の展示終了後には芸術の都フランス・パリにわたり、「世界にまだ知られていない日本文化の魅力」を紹介する大規模な複合型文化芸術イベント（公式HPより）ジャポニスム2018の公式プログラム「縄文展」に、日本を代表する土偶の一つとして展示される予定です。じょーもぴあ宮畑への帰還は年明けになる模様ですが、ぜひフランスの皆さんにも縄文の美を堪能していただきたいと思います。



展示案内 ⑩

公園のいちばん西端には露出展示棟があります。この場所は縄文時代後期（今から約3,500年前）の土器捨て場ですが、ごみ捨て場というよりはすべてのものに魂が宿ると考えていた縄文人たちが、モノに宿る魂を自然に還す【もの送り】を行った送りの場である可能性が高いと考えられます。

発掘調査で見つかった状態をそのまま保存しており、屋内で見学

写真入る

することが出来ますが、露出展示は湿度や土壌の水分量の影響を受け、ひび割れやカビの発生などが見られる場合があります。そのため、露出展示棟内外の環境調査を発掘調査段階より継続しており、屋外では気温や湿度、雨量のほか地下水位などを、屋内では気温湿度に合わせて土壌の水分量などの変化を記録しています。環境の状態を記録し、注意深く変化を見守ることで文化財を保護しているのです。



連載コラム 縄文の小径

「草創期」の稿をどう構成するか練っていた矢先、「3万年前の落とし穴発掘」の報道があった。3万年前に縄文時代か、と一瞬ドキッとしたが、落とし穴は石器時代のものという。それならそれで3万年前すでに定住生活をしていただろうことか。ともあれ、縄文時代の開始の年が変わらずほっとしている。

縄文時代を特定するのは土器である。当然のことだが、縄文時代の開始を告げるのも土器である。最初の土器は、いつ、どこでつくられたのか、そしてどのようにして世界に広がっていったのか？考古学者ゴードン・チャイルドは新石器革命という概念をとらえ、土器はメソポタミアから世界各地に拡散したという。それが定住し、生産力の拡大とともに、都市が発展するというものである。かつてはこの説が有力で、これに従った山内清男は、日本に土器がきたのは4000年前として縄文時代の土器編年を作り、縄文時代を早期、前期、中期、後期、晩期の5つの時代に大別した。

ところが、昭和30年代に神奈川県横須賀市の縄文時代早期の史跡夏島貝塚から9500年前という、とんでもなく古い土器が発見され時間的な土台が大きく揺らいでしまった。夏島貝塚の発掘調査では、放射性炭素による絶対年代の測定という新しい化学的手法を援用したので、それまで縄文文化の初源はせいぜい今から4000年程度遡るものと予想していた山内清男の考えと真つ向から対立した。C14年代を根拠に縄文時代早期が5000年以上遡るとする岸沢長介と、それを信用できないとする山内清男との間に激しい論争が起こったことはよく知られている。その間に、山内清男は早期の前に草創期を置くことを提唱した。

さらに昭和30年代後半には、山形県日向洞窟などの高島町洞窟遺跡の調査が行われ、さらに古い土器の存在が明らかになる。旧石器時代の伝統を引く石槍などとともに、口縁部付近に幾筋かの「みみずばれ」状の隆起線をもつ土器が出土している。当時、長崎県佐世保市の福井洞窟の土器からは、放射線炭素による年代測定で約1万2500年前という数値が提示された。縄文時代の年代観の再構築が迫られていた。山内清男は昭和44年、縄文時代草創期、の概念を提示し、土器型式編年を総括し完成させた。

その後、青森県津軽半島の大平山元遺跡から出土した土器片に付着していた炭化物の放射性炭素年代の測定結果、約16500年前のものであることがわかった。

土器が必要になり技術的發展があったのだらうか。土器の発明は、定住によるのか遊動が大きな疑問が残る。世界最初の土器が縄文土器で、狩猟採集の社会から誕生したことを究明することは、縄文文化の起源を解明する重要な手がかりになるはずだ。

これ以上難解にならぬよう、冒頭の3万年前の遺跡から土器が発見されないことをひそかに祈っている。また、縄文時代の始まりは、確たる意味のないま偶然にこうあるものにはすぎないものにも思えてくる。縄文への道のりは簡単な道ではない。

（遊行子）



その結果、草創期の始まりは水河期まで遡り、縄文時代の時間幅はそれまでさらに長くなった。共存する神子柴・長者久保石器群は、旧石器時代末期の特徴を引き継いでいるという。世界最古となったこの土器片は、装飾がない無文土器である。土器を中心とした居住には柱穴や凹みは認められず、地下への掘り込みもないことから、移動式テント等ではないかと推測されている。そうなら、縄文人の最初の住居は堅穴式住居ではなく、定住への移行過程を示す、定住とも遊動ともとれる住居になる。縄文文化の成立に関わる重要な遺跡である。

縄文土器が、放射性炭素による絶対年代の測定という科学的手法の結果、世界最古の位置が与えられてから500年が過ぎた。どうやら世界最古の土器は、日本列島に落ち着きそうだが、また、なぜ縄文土器が農耕や牧畜も行わない社会にいち早く生まれたのか、もう一度考えてみなければならぬ。チャイルドは農業によって定住するようになったと云うが、狩猟採集もまた定住するのである。また、縄文人の最初の住居は、定住とも遊動ともとれる住居である。遊動生活の中で、